



高橋美子
高橋樂斎
田尾晃

初窯展 ―信楽の自然と共に―

令和5年9月3日(日)～8日(金)

高橋楽斎・高橋美子・田尾 晃 初窯展 —信楽の自然と共に—

会 期 令和5年9月3日(日)～8日(金)

会期中無休

開廊時間 11:00 ～ 19:00

※ 最終日の9月8日(金)は17:00まで

出品作家 高橋楽斎 会期中、全日在廊

[在廊予定日] 高橋美子 9月6日(水)～7日(木)

田尾 晃 9月3日(日)～4日(月)

会 場 柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11

安与ビル地下2階

TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335

MAIL gallery@kakiden.com



柿傳ギャラリーHP



公式 Instagram



お手間で恐縮ですが、弊廊ホームページや公式SNSにて、最新情報をご確認頂ければ助かります。

高橋楽斎さんの作陶生活は「信楽の自然と共にある」と私は思っている。そのことを、なによりも自身の作品が語っている。楽斎さんの作品には、無理に作ったところがなく、なんとも気持ちがいい。その生き方を次女的美子さんか受け継ぎ、ご主人の田尾さんにも影響を与えている。信楽の自然と共にある、美しい生き方である。第2回「高橋楽斎・高橋美子・田尾晃 初窯展」を柿傳ギャラリーで開催するに当たって、新しい窯を築かれた。大きな登り窯を焚くのが、年齢と共に体力的に厳しくなってきたからだ。楽斎さんは来年69歳、再来年は古稀を迎えられるので、60代最後の挑戦である。新しい窯は、部屋数を5部屋から3部屋に縮小したため、使用する松割木も600束から350束に減らすことができたそうだ。効率を考えてのことであるが、そこにも無理をしないという楽斎さんの生き方がある。

今回出品の楽斎さんの《広口大壺》や《蹲》は、信楽焼の特長である火色や焼肌が見事に表現され、灰被りや釉流れが魅力的である。それは古信楽の再現ではなく、現代の古典を表現している。また、初窯を記念して焼かれた《左馬茶碗》でお茶を飲むと無病息災、中風にならないという言い伝えがあり、七福神を乗せた《宝船水差》は誠に縁起の良い作品である。

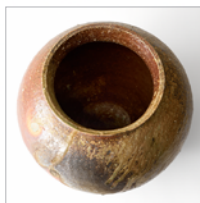
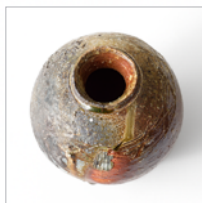
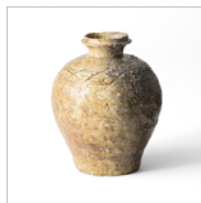
美子さんのやや小振りな《信楽しのぎ壺》を眺めていると、女性らしいやさしさと大らかさを感じる。前回の作品は女性らしい繊細さが魅力的だったが、その変化を尋ねると、子供が生まれて2歳になったという。《輪花花入》の口作りからは母の大きな愛を、しのぎを施した胴の稜線からは心の強さが感じられる。

一方、父親になられた田尾さんの《昇る》と《佇んで》の2作は初窯作品で、どちらも鉱物の結晶体を想像させる角柱の集合体だが、信楽焼の特長である火色や焼肌を取り入れたことで、従来の造形性に加えて土の生理をも表現している。他にも、滋賀県立陶芸の森の穴窯で焼いた釉薬作品などが出品されるという。

森 孝一 (美術評論家・日本陶磁協会 常任理事)



楽斎窯の初窯焼成の様子 令和5年7月6日～10日



五代 高橋楽齋
Takahashi Rakusai

昭和 29 年 滋賀県甲賀市信楽町生まれ
昭和 50 年 滋賀県立信楽窯業試験場 卒業
昭和 52 年 荒川豊蔵先生のもとに互窯会結成
平成 4 年 柿傳ギャラリーにて個展 (9 回)
以降、日本橋三越本店、福岡三越、大阪高島屋、J R 名古屋高島屋、
京都高島屋、山口井筒屋にて個展
平成 22 年 五代 高橋楽齋 襲名
令和 3 年 高橋楽齋 高橋美子 田尾晃 三人展 (柿傳ギャラリー)

蹲

W15.4×D15.2×H19.0cm

広口大壺

φ38.0×H32.0cm



「左馬」について

新築の窯を初めて焼成するときに、「左馬」の文字を作品に入れて焼くという風習があります。諸説ありますが、『うま』を逆さまから読むと、『まう(舞う)』であり、舞が祝賀で催される事から招福の象徴とされています。

初窯でしか焼成することができない特別な作品のため、作家の一生の中で数多くは作ることができない記念の品です。

又、初物を食べれば長生きするという初物信仰と一緒に、信楽では「左馬」の茶碗でお茶を飲むと無病息災、中風にならないという言い伝えがあります。

左馬茶碗
W12.0×D12.1×H7.8cm



五代 高橋楽斎
Takahashi Rakusai

宝船水差
W17.9×D35.1×H21.0cm





高橋美子
Takahashi Yoshiko

昭和 63 年 滋賀県甲賀市信楽町生まれ
平成 21 年 関西外国語大学 短期大学部 国際コミュニケーション学科 卒業
平成 24 年 京都府立陶工技術専門学校 修了
平成 25 年 滋賀県立信楽窯業技術試験場 修了
平成 28 年～令和元年 滋賀県陶芸の森創作研修課技術スタッフとして勤務
令和 5 年 University of Michigan Museum of Art での展覧会出品、講演会
現在 信楽町にて制作

輪花入
φ14.4×H34.5cm

信楽しのぎ壺
φ23.0×H23.8cm



作るで

W14.0×D12.0×H17.5cm



昇る

W16.0×D13.0×H41.0cm

田尾 晃
Tao Akira

平成 3 年 長崎県長崎市生まれ

平成 22~26 年 The New York State College of Ceramics at the Alfred University,
Art&Design 学部卒業

平成 26~27 年 同大学にて Assistant Technician として勤務

平成 28~29 年 滋賀県陶芸の森にてスタジオアーティストとして 1 年間滞在

平成 29 年~現在 滋賀県陶芸の森創作研修課技術スタッフとして勤務

現在 信楽町にて制作



柿谷ギャラリー
KAKIIDEENGALLERY

160-0022

東京都新宿区新宿 3-37-11

価格表

高橋楽斎・高橋美子・田尾 晃 初窯展
—信楽の自然と共に—

作家名	作品名		本体価格/円 (税込価格/円)	作品サイズ (cm)
高橋楽斎	広口大壺	P4	500,000 (550,000) [桐箱付・後日]	φ 38.0 × H 32.0
	蹲	P5	170,000 (187,000) [桐箱付・後日]	W15.4 × D 15.2 × H 19.0
	宝船水差	P6	300,000 (330,000) [桐箱付・後日]	W17.9 × D 35.1 × H 21.0
	左馬茶碗	P7	120,000 (132,000) [桐箱付・後日]	W12.0 × D 12.1 × H 7.8
高橋美子	信楽しのぎ壺	P8	100,000 (110,000) [桐箱付・後日]	φ 23.0 × H 23.8
	輪花花入	P9	130,000 (143,000) [桐箱付・後日]	φ 14.4 × H 34.5
田尾 晃	昇る	P10	60,000 (66,000) [箱代別途]	W16.0 × D 13.0 × H 41.0
	佇んで	P11	32,000 (35,200) [箱代別途]	W14.0 × D 12.0 × H 17.5